

161) 英国のeVisa・ETA

英国の永住権（ILR）保持者が eVisa（電子査証）・ETA（Electronic Travel Authorisation 事前渡航認証）無しで eGate を通過出来る仕組み



161) 英国のeVisa・ETA

2023年11月：英国で ETA (Electronic Travel Authorisation) が順次開始（日本に対しては2025年1月から）
2025年1月：eVisa 制度 が本格運用開始

- * ある日本人女性は ILR (永住権) を持っているが、eVisaは未取得。それでも eGateを通過出来たと言う事例
- * なぜ ILR (永住権) 保持者で eVisa無しでも eGate を通過出来るのか？
- * その人は、3冊前の古いパスポートに ILR スタンプが有り、現在のパスポートにはeVisaが無い

161) 英国のeVisa・ETA

結論

- * ILR は UK Home Office の 中央データベース に記録
- * eGate は パスポート + 顔認証 でデータベースを検索
- * ILR はその人に付与され、過去の複数のパスポートが紐付けられている



161) 英国のeVisa・ETA

結論

* Home Office のデータベースには
以下の記録が保存

氏名・生年月日・顔写真（生体情報）
過去・現在のパスポート番号・入国・
査証の履歴



161) 英国のeVisa・ETA

eGate での認証の流れ

- * 現在のパスポートをスキャン
- * ICチップから顔画像を読み取り
- * Home Office のデータベースと照合
- * ILR 保持者として一致すれば、eVisa の有無は不問
- * ILRのスタンプが古いパスポートにあっても問題無い
- * それは過去の全てのパスポートと現在のパスポートの履歴が紐づけられて保存されている為



161) 英国のeVisa・ETA

eGate で弾かれる例

- * 結婚等での氏名変更・新規パスポートの未登録
- * 生体情報が古すぎる・一致しない
- * その他非常に古い記録でデータ未統合
- * 新規パスポートで 英国入国履歴が一度もない



これらの場合、eVisa や UKVI アカウントの更新が必要になることも有り

161) 英国のeVisa・ETA

ChatGPTへのQ&A



(Ref S11)

(ChatGPTへの質問)

英国では2023年11月からETA Electronic Travel Authorisation 事前渡航認証制度が、そして2025年1月からeVisa制度が本格的に運用が始まりました。しかし、有る日本人女性は、英国のILR Indefinite Leave to Remainを所持しており、しかしeVisaは持っていないのにも関わらず、海外から英国に10回以上再入国する際、過去にeGateで何の問題も無く通過出来ているとのことです。その人はeVisaもETAも無く、3冊前の古いパスポートにILRのスタンプが押されているのですが、どうやって英国はその人のVisaステータスを確認しているのですか？

(ChatGPTからの回答)

とても良いポイントに気付いています。結論から言うと、その人がeVisaもETAも持っていないのにeGateを通過出来る理由は、英国はeVisaだけでは在留資格を管理している訳ではなく、複数のバックエンド・データベースを横断的に照合しているからです。以下、仕組みを順に説明します。

結論の要点（先にまとめ）

- * ILR (Indefinite Leave to Remain) は英国政府の中核データベースに恒久的に記録されている
- * eGateではパスポート番号+生体情報（顔）を基に自動照合
- * 古いパスポートにILRスタンプがあっても、過去のパスポート履歴と現在のパスポートが紐づけられている
- * eVisaは可視化・オンライン証明の為の制度であり、在留資格そのものではない

英国はどうやってビザステータスを確認しているのか？

1) 中核はHome Officeの移民データベース

英国の移民管理は、UK Home Officeが管理する中央移民データベースが本体です。

ここには：

- * ILR付与時の記録
 - * 申請時の氏名・生年月日
 - * 顔写真（生体情報）
 - * これまで使用した全てのパスポート番号
- が保存されています。ILRはスタンプではなくデータベース上の権利です。